

(5) 山の仕事

村の森林の面積は、17,223ヘクタールで総面積の81.8パーセントにあたります（平成2年度）。そこにはスギ、カラマツなどの木が植えられ、豊かな森林が広がっています。しかし、そのほとんどが国有林（国で管理している森林）で民有林はわずかにすぎません。それでも、昔から山の仕事がさかんに行われてきました。

山の仕事は主に営林署が行います。よい木を育てるには、苗木を植えてから、下草かり、枝うち、つる切りなどの仕事を何年も続けなければなりません。また、昭和村は雪が多いため雪おこしも大切な仕事です。これをしないと、雪の重みで木が曲がったり、折れたりしてしまうからです。植えた木が役立つまでには、長い年月がかかる大変な仕事ですが、家や家具などの木材や紙の原料となるなど、わたしたちの暮らしにはなくてはならない大切なものです。



▲下草かり



▲いらぬ木を切る

坂下営林署の方の話

今、育てている木が利用できるのは次の世代（今の小学生位）なので、自分の子どもや孫のことを思いながら毎日仕事をしています。少ない人数で広い森林をみているのでとても大変です。

